



# 水道事業の中長期展望 及び再構築計画を改訂しました

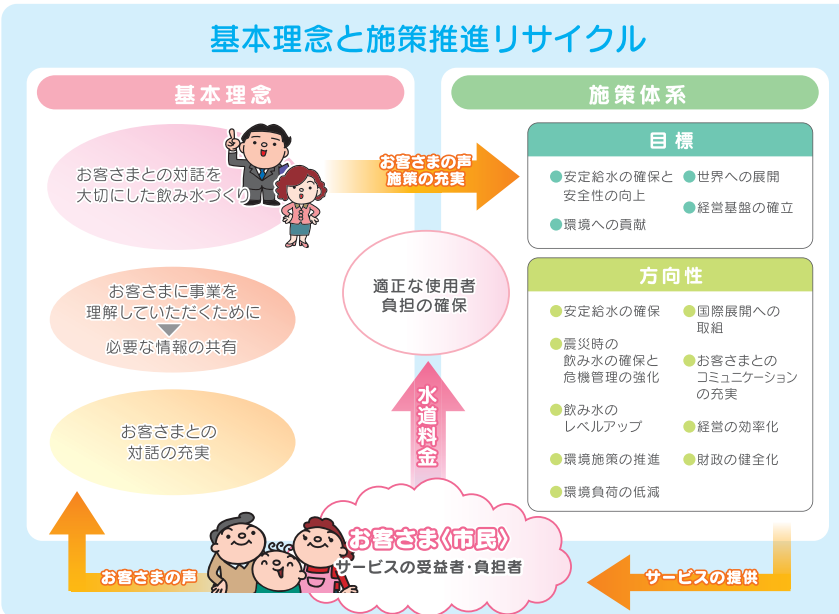
水道事業の中長期展望は、限られた財源を有効に活用し、効率的な事業執行を確保するために策定したものです。

今回、事業環境の変化を踏まえ、中長期展望の改訂を行いました。

また、中長期展望で示された主要な課題を解決するための実施計画である水道事業の再構築計画についても併せて改訂を行いました。

## 【中長期展望の概要】

平成18年度から概ね10年度程度(中期:平成23年度から平成25年度)を計画期間として、主に次の取組を推進します。



### 安定給水の確保と安全性の向上

安定した給水体制を維持していくため、将来の水需要を踏まえた事業規模の適正化を前提として、施設の改良・更新を計画的に実施します。また、老朽送配水管や老朽給水管の更新、広域連携、基幹施設の耐震化、危機管理体制の充実、水質管理・監視体制の充実等の施策を実施します。

### 環境への貢献

自然流下を活用した取水・送水・配水、省エネルギー、資源循環、廃棄物の削減、新エネルギーの利用など環境負荷の低減に取り組み、環境保全施策を進めます。

### 世界への展開

世界の水問題解決に貢献するため、専門家派遣・研修員受入等の国際貢献を行うとともに、ビジネスとして成立することを視点とした新たな国際展開に取り組みます。

### 経営基盤の確立

お客さまとのコミュニケーションの充実、経営の効率化、財政の健全化を柱として、お客さまとの対話の充実、お客さまの声の活用、人材育成、工事コストの削減、資産の有効活用などの経営基盤を強固にするための施策を進めます。

## 【再構築計画の概要】

平成18年度から平成28年度まで(中期:平成23年度から平成25年度)を計画期間として、主に次の取組を推進します。

### 1 長期水需要予測に基づく事業規模の確定

・現在の給水能力1日989,900m<sup>3</sup>を1日758,200m<sup>3</sup>とします。

### 2 安全安定給水の確保及び効率的な施設形態の構築

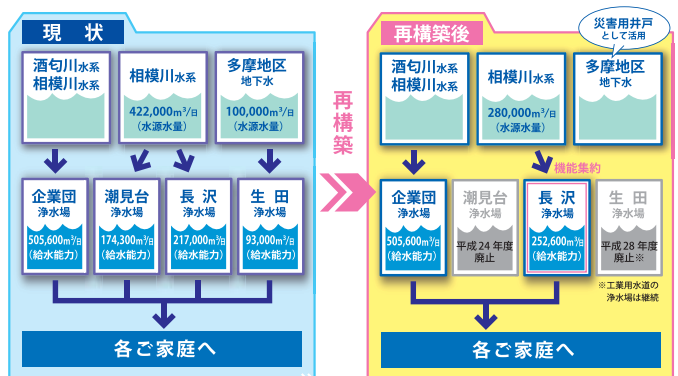
・長沢浄水場に浄水機能を集約します。  
(平成24年度に潮見台浄水場、平成28年度に生田浄水場を廃止)  
・緊急時のバックアップ、自然流下割合等を考慮して効率的な施設形態を構築します。

### 3 再構築に伴う施設整備

・事業規模のダウンサイジングにより効率的な施設更新を行うとともに、災害に強い水道システムを構築します。

### 4 経営の効率化

・給水能力の見直しや下水道事業との組織統合などを踏まえ、組織機構の再編、執行体制の見直し等を推進し、より効率的な経営を目指します。



長沢浄水場再構築計画  
完成予想図(イメージ図)

## ！ 再構築計画の経費削減効果

浄水場の統廃合により事業規模をダウンサイジングすることで、現在ある3つの浄水場をそのまま更新した場合と比較して、経費を大幅に削減することができます。具体的には、再構築計画の最終年度に当たる平成28年度を基準とすると1年あたり約28億円の経費削減効果があると試算しています。